

福岡・ラオス友好協会と在福岡ラオス名誉領事館でラオスを訪問

福岡貿易会会員を中心に2010年4月に設立された福岡・ラオス友好協会は、今年で5年目を迎えます。2年に1回のペースでラオス訪問を計画していましたが、昨年は、福岡貿易会のミャンマー訪問団と時期が重なったため先送りとし、今年2月16日から21日の日程で訪問団を派遣しました。団は福岡・ラオス友好協会と在福岡ラオス名誉領事館に長崎ラオス友好協会メンバー5名が加わり総勢25名で首都ビエンチャンと古都ルアンパバーンを訪問しました。

【首都:ビエンチャン】

今回は現地ラオスで活躍中の人達と意見交換をし、且つ諸外国からの投資により変わりゆく街の状況を見て、今後の友好協会の進め方と、どのようなビジネスチャンスがあるかを探ることを主な目的としました。今回、「体重計の贈呈式」「ラオス投資セミナー」「在ラオス日本大使公邸での晩餐会」「ラオス財閥の一つポンサワン会長訪問」「ソムデイ計画投資大臣表敬訪問」等々、分刻みの公式行事の合間を縫って、韓国資本で開設された証券取引所、現在開発中の中国資本のショッピングモール用地、ベトナム資本により開発されたアジア最大と言われるゴルフ場等々、開発が進む市内の視察を行いました。

また、ビエンチャン市民が買物に行くというメコン川を挟み国境を接するタイ・ノンカイのショッピングモール(大型スーパーマーケット)、ノンカイ駅等を見て、ラオスとタイ経済の発展ぶりの比較をするとともに、ラオスの将来を予測しました。ノンカイからの帰路、中島名誉領事と長崎・ラオス友好協会が長崎市民病院からの医療器具の寄贈の検討しているラオスの民間病院「ラオ・アセアン・ホスピタル」を訪問し、福岡出身の女医・原田さんから病院の案内をしていただきました。以下、主な行事を紹介します。

<体重計の贈呈式>

市内・近郊の小学校、幼稚園に体重計を寄贈することとし、50個を寄贈しました。当日はビエンチャン市役所文化教育局長と25校の小学校・幼稚園代表者が出席する中で贈呈式がとり行われました。

文化・教育局長に体重計を渡す津田会長



<ラオス投資セミナー>

現地で活躍中のビエンチャン日本人商工会議所山田氏、赤坂総合事務所ラオス代表飯田氏、現地会社 LeFu 社副社長の坂田氏 3名から現地での苦労話、これからの夢・ビジネスチャンス等の話を伺いました。飯田氏の「ラオスは今明治維新」という言葉と、2年間で立ち上げた小豆栽培、ケーキ・パン製造卸販売、弁当製造販売、和牛プロジェクト等の事業実績と今後のエネルギー事業が印象的でした。

講演中の飯田氏



<在ラオス日本大使公邸での晩餐会>

現地で活躍の日系企業・諸団体、ラオス政府関係者、日本大使館メンバーとの交流会が大使公邸で開催され、忌憚のない意見交換を行うことができました。

岸野大使の歓迎の挨拶

<ラオス政府ソムデイ計画投資大臣による投資セミナー>

2012年10月に来福されたソムデイ大臣を訪問し、再会を祝すと共に日本からの投資について要請がなされました。

<ラオス大手財閥のポンサワン頭取訪問>

ラオス唯一の民間銀行他を経営するポンサワン財閥が計画するビエンチャン副都心構想「サントン郡開発」について熱い説明を受け、日本からの投資を依頼されました。





ソムデイ計画投資大臣を囲んで



ラオ・アセアン・ホスピタル前にて原田医師と

【古都:ルアンパバーン】

1995年に街全体が世界遺産に登録された古都ルアンパバーンを再度訪問(19日、20日午前)。ルアンパバーンはちょっと郊外に行けば機織りの村、紙漉きの村、焼酎の村があり、支流のカーン川では子供たちが水遊びに興じ、お坊さんの早朝の托鉢は365日行われています。日本の5、60年前の原風景に出会える心洗われる街です。フランスの植民地であったことからか欧米人の旅行者が多く、まだ日本人の旅行者を見るのは本当に稀です。次回は皆さんを是非お連れしたいと思います。(事務局・甲斐記)



早朝の托鉢



昔ながらの製法で作るラオ焼酎



機織りの少女



紙を漉く女性



毎夜開かれるナイトマーケット



優美なラオスの踊り

